

我が家の宝物



「そっくり兄妹です。」
よしおか 利矩ちゃん・万由ちゃん
H11.12.11生・H13.10.16生（一番町）



「ビィビィちゃんです。とても頭がいいラビットですヨ…」
渡辺 紀絵さん（山口）



「もうすぐ誕生日です。たちできるようになりました！」
やまかわ ゆきの
山河千乃ちゃん（笠岡）
H15.5.26生



「15年目を迎えるマルチーズのマルです。ずっと一緒にいてネ！」
渡邊 マルちゃん
渡邊 澤子さん（笠岡）



「わが家の生ごみをリサイクルしてくれるミミズちゃんです」
畦崎 香帆ちゃん・涼太郎ちゃん
（大井南）

「宝物」はその人にとって、かけがえのない人（子ども）であったり、可愛いペットであったり、他人には思いもつかない「物」であったりすると思います。そんな宝物の写真を一言メッセージを添えて、まちづくり推進課まで送ってください。

展覧会のご案内

「岡山の美人画家
おおばやし ち ま き
大林 千 萬 樹」展
4月24日（土）～6月6日（日）

岡山出身の美人画家、大林千萬樹の作品を中心に展示。常設には竹喬作品約40点を展示。



〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

昭和四十二年から四十八年にかけて、朝日新聞紙上に大佛次郎による「天皇の世紀」という連載小説が掲載された。この連載小説には、奥村土牛や安田靉彦など三十三名の画家による千五百五十五点の挿画が掲載されたが、竹喬はそのうち最多にあたる二百四十点を担当している。

小説の挿画とは言いながら、大佛は「明治をよく知っておられる方に、自由に描いて」もらうことを望んだ。竹喬は、手元にある明治時代から大正時代にかけてのスケッチをめぐり、また新たに取材も行った。

これらの挿画には、時おり竹喬自身の言葉も添えられていた。湖面に伝統的なえり漁のしかけが描かれているこの「琵琶の海」には、次の言葉がある。「明治天皇が特に賞味されたという鯉（ヒガイルコイの一種）は、琵琶湖にも産しているが、京の料理はこれを特に美味にした。そのことで、ふと、湖のほとりの景色を、懐かしく思い浮べるのである。」



「琵琶の海」

小野竹喬 作
朝日新聞「天皇の世紀」挿画
昭和42年5月30日掲載
16.3×21.2cm

竹喬美術館の光彩 17



発行／笠岡市役所
編集／まちづくり推進課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

係から
広報の発行日が今月号から一日発行に変わりました。また、広報紙自体も紙質が変わり、また、広報紙もカラーから白黒に変わりました。さらに、編集の方も手書きレイアウトでの原稿出しから、パソコンを使ってレイアウトから文字組みまでを行い、印刷用データを印刷会社に渡すように変わりました。慣れない作業で四苦八苦し、一時は発行日に間に合わないかもとの不安もよぎりましたが、多くの人のサポートにより、なんとか無事に発行することができました。本当にありがとうございます。今後は、こういって感謝の気持ちを持たず、広報を作っているかと思っております。（松）

今月の表紙
四月二十一日に、笠岡湾干拓地内ふれあい空港一体で「菜の花」満開イベントが開催されました。当日は、ポカポカ陽気のなか、昨年十月二十三日に菜の花の種を植えたメンバーが中心となって開花を祝いました。

オープニングセレモニーでは、参加した保育園児たちが「世界に一つだけの花」など三曲を大きな声で元気よく歌ってくれました。また、開かれ、城見保育所が優勝しました。この菜の花は、五月末に刈り取って油を搾取し、市内の小中学校の給食に使用したり、軽油の代替燃料などに加工する予定です。

